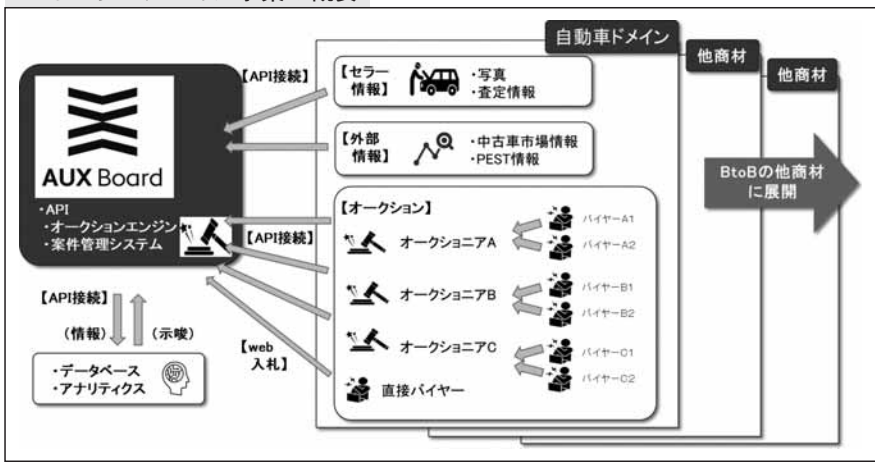


SOMPOホールディングス

事業者間オークション事業に本格参入

BtoBオークション事業の概要



クルーテックラボ社の全株式を取得し子会社化

SOMPOホールディングスはクルーテックラボ株式会社飯島章喜代表取締役社長、本社・東京都港区の全株式を取得することにより子会社化したうえで社名をSOMPOオークス株式会社に変更し、9月から事業者間オークション事業(以下「BtoBオークション事業」)に本格参入している。

社名を「SOMPOオークス」に

事故車をリサイクル業者に売却

近年の自動車の衝突防止技術の進展により交通事故件数が減少している一方で、大規模な自然災害の頻発などにより、その台数は高止まりしている。これらの自動車



(損保版)

第1～4月曜日発行
発行所 新日本保険新聞社
大阪市西区朝本町1丁目5-15
(郵便番号550-0004)
電話 (06) 6225-0550 (代表)
FAX (06) 6225-0551 (専用)
購読料 1か月2200円
(消費税、送料込み)
©新日本保険新聞社 2020

シンニチ保険Web
www.shinnihon-ins.co.jp
購読者専用バックナンバー
閲覧パスワード
Saltycat
2020年12月7日 AMまで
※偶数月の第一月曜日正午ごとに変更

それらの自動車を最適な方法で売却し、中古車もしくは部品としてリユースされる割合を高めることは、循環型社会の実現のための一つの要素となり、リユースの割合を高めるには、より多くの購入希望者の目に触れる機会を提供することが重要である。また、損保ジャパンにとって、より高い金額で最適な購入者にこれらの自動車を売却することで、自動車保険の収益改善につながる可能性がある。

このような背景から、SOMPOホールディングスは、web上でのオークションを中心とした事故車をリユース、リサイクル業者に売却するBtoBオークション事業に参入することを決定した。

SOMPOホールディングスは、2016年に国内ベンチャーキャピタルファンドのグローバル・カタリスト・パートナーズ・ジャパン投資事業有限責任組合(無限責任組合員 大澤 弘治、本組合員 東京港区、以下「GCPJ」)に出資。その後、両者間で新事業を検討する契約を締結し、SOMPOホールディングスが事業アイデアやマンパワーの提供を行い、GCPJは実証実験会社としてクルーテックラボを設立した。SOMPOホールディングスは事故車の売却事業を立案し2018年から実証実験を行った

結果、BtoBオークション事業のビジネスモデルにおいて、従来よりも車両が高額で売却でき、事務運用面の現実性についても検証ができたことから、クルーテックラボを買収しオークション事業へ参入することにした。

BtoBオークション事業の概要

オークションは、商品に対して購入希望者が多いほど価格が競り上がる原理で、従来の自動車オークションは運営事業者ごとに独立しており、1台の車両に入札するバイヤーの数は限りがあった。そこで、複数のオークションに同時出品・入札することが可能な「AUX Board」(オークスボード)を開発。「AUX Board」の特長は、API※で複数のオークションと同時接続し、車両1台ごとに従来より多くのリユース目的の購入希望者の目に触れる機会を提供することによって、高額での売却とリユース率の向上が期待できる点にある。

また、さまざまな損傷状態の自動車が発生するため、リユースできる可能性の低い車両は、入札等により最適なリサイクル業者に売却、適切に解体を継続し、2020

保険代理店を対象にした内部監査支援事業を強化

セブンスターズコンサルティング

保険代理店向けに各種コンサルティング事業を展開するセブンスターズコンサルティング株式会社(東京・港区、佐々木篤史代表)は、このほど、保険代理店を対象にした内部監査支援事業を強化する。

金融内部監査士資格を有する同社代表の佐々木氏は保険会社勤務時代、コンサルティング事業を代理店および保険募集人の営業トレーニング全般を担当。営業スタイルの改革に関する社内プロジェクトの立ち上げと遂行に従事するなど、営業教育現場に精通する。

内部監査支援事業では、保険会社時代に培った営業トレーニングの豊富な経験をいかし、営業現場の実情に即した内部監査のアドバイスをを行うことを強みとしている。

内部監査の進め方はまず、代理店の営業活動の現状と課題について事前ヒアリングと打ち合わせを実施。その後、機密保持契約書を締結して内部監査業務を行う。監査は原則、対面での面談を前提とするが、新型コロナウイルスの蔓延による理解と確実な実行、そして、保険契約者と保険会社を適正に繋ぐ役割が一層求められる。内部監査サービスを利用したことで、経営品質の向上に一緒に取り組むを進め、自立・自律した組織づくりを支援する。FD宣言の策定支援も開始しており、身近で気楽に頼れる商品の取り扱いも検討していく。

春秋

コロナ禍ではあるが、経済活動の再開が徐々に進み、繁華街にも客足が戻って来た。休日の繁華街の活気は、コロナ禍であることを感じさせない。マスクとお店の消毒液の存在も、慣れてきたのか違和感がなくなった。

各種イベントも少しずつ復活しているようだ。私は先日、アマチュアオーケストラの演奏会を聴きに行った。受付では体温測定とアルコール消毒があり、出演者に対するプーレンツもお断り。座席はひとつずつ間が開けられている。さらに「マスクをつけてください。隣の人の会話を聞かないでください」というアナウンスと、同じ内容を記載したプラカードを係員が掲げて歩いている。

当然とはいえ、かなりの徹底した対策だった。しかし、空席とする座席には「これは私の席です」とマスクをしたパトロールの顔が印刷された紙が貼られていた。これは何とも楽しく、緊張感が少し和らいだ。

ところで、このようなコロナ対策と経済活動の両方を維持することの苦勞は大きい。本来、2倍の観客が入れるにもかかわらず、半分にすることでチケット収入の半減、さらに検

温機器・検温要員・座席をひとつずつ開けるための準備や手間、その他各種対応にいろいろと経費がかさむ。これは演奏会のようなイベントだけではなく、飲食店でも同様だ。座席の間隔を開けることで、お客様の数が減り、売り上げも減少するだろう。

しかし、感染者や陽性者がまだ激減とはならない現在、このような活動は実に厳しい。我が国では死亡率や重症化率が低いようだが、決して安心はできない。来年のオリンピックだけではなく、安心して生活できる社会が戻ってほしい。全ての人がこの立場にあることも、感染防止に留意する必要があることを改めて実感した。(三和)

「演奏会場でのコロナ対策」

このように、従来の自動車オークションは運営事業者ごとに独立しており、1台の車両に入札するバイヤーの数は限りがあった。そこで、複数のオークションに同時出品・入札することが可能な「AUX Board」(オークスボード)を開発。「AUX Board」の特長は、API※で複数のオークションと同時接続し、車両1台ごとに従来より多くのリユース目的の購入希望者の目に触れる機会を提供することによって、高額での売却とリユース率の向上が期待できる点にある。

また、さまざまな損傷状態の自動車が発生するため、リユースできる可能性の低い車両は、入札等により最適なリサイクル業者に売却、適切に解体を継続し、2020

スの略で、起動しているアプリケーション同士をつなぐ機能のこと。

※APIとは、Application Programming Interface (アプリケーション・プログラミング・インターフェース)において、自動車の引き取りを継続し、2020

その過程で、自動車の査定を通じて残存価値にかかる情報や、オークション過程での入札履歴、オークション結果(その時点の市場価格)のリアルタイムを取得し、最適な販路判定や価格設定の高度化につながるだけでなく、新サービスの開発に活用する。また、保管ヤードや車両輸送のパイプラインを拡大するリユースチェーンを拡大することにも、オークションに参加するバイヤーや、出品するセラーの拡大を目指す。なお、「AUX Board」を活用して、損保ジャパンの事故車だけでなく他のダメージ商品やリユース商品の取り扱いも検討していく。